



きれいな学校 輝く笑顔 ~ナンバーワンスクールを目指して!~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

みちのく一人旅

~志を得ざれば、再びこの地を踏まず!~

校長 澤田純一

朝晩、少し冷え込むことを感じるとともに、過ごしやすい季節になってきました。反面、気候の変化から体調を崩さぬよう留意してください。そして、今月は合唱祭があります。クラス一丸となって取り組みましょう。

さて、私は、涼しい季節がらバイクに乗って旅することが趣味の一つでもあります。運転中は事故が起きないように集中するので、物事を考えるときは断片的になります。しかし、この断片的な思考の中でも仕事の事や家族の事を考える時間が貴重であり、リフレッシュになっています。先日、福島県会津方面から山形方面へツーリングに行きました。私は11年前に館岩少年自然の家の所員として、3年間単身赴任をしていましたので特に福島県会津地方は私の第2の故郷と言えます。ここで福島県会津地方の「思い出ベスト5」を振り返りましょう。第1位：尾瀬沼、第2位：野口英世記念館、第3位：会津若松城、第4位：喜多方の街並み、第5位：五色沼。それぞれ解説をしていると、紙面が足りなくなるので、今回は野口英世氏（皆さんも良く知っている人物ですね）について触れたいと思います。

磐梯山の麓（猪苗代湖側）に野口英世記念館があります。中に入ると木造平屋建ての英世氏の生まれた家がそのまま保存されています。その生家は隙間風が入りそうな建築物で、貧しかったこと、冬は大雪に覆われ寒かったことを私の心に語りかけてきます。次に、家の中を見渡すと一本の柱があります。そこには「志を得ざれば、再びこの地を踏まず」（医師にならなければ、生まれ故郷には帰ってこない）と刻まれており、英世氏の強い決意が、またも私の心を揺さぶります。そうです。この英世氏の熱い想いにふれたくて私は幾度となくこの記念館を訪れるのです。（私は、これほど心に響いた言葉を聞いたことがありません）英世氏は、寝る間も惜しむように勉学に勤しみ、見事に国家試験に合格し、その後、アフリカに渡って黄熱病の研究を行いますが、残念ながら自ら黄熱病にかかり殉職します。ここを訪れると英世氏の壮絶までの生き方が私に勇気と活を与えてくれるのです。見学後、時計を見ると時間がたっぷりとありました。私は、ここからさらに足を延ばして、米沢市にある上杉神社に向かいました。ここは、戦国武将、上杉謙信公を祀（まつ）っている神社です。後世では、「越後の虎・越後の龍」と称されていますね。旗印は戦いの神を表す「毘沙門天」です。私が、その幻想的な社（やしろ）の前に立つと「義に生きよ！」と謙信公が語りかけてきました。このように史跡を訪れると、かつての偉人が、たるんだ心をリセットしてくれるのです。

しばらくすると、雨が降ってきました。東北地方は雨が降るとこの季節でも肌寒く感じます。帰りがけ、喜多方市に立ち寄りラーメンを食べました。何ともうまい！体の芯から温まりました。そして、心身ともにリフレッシュした私は、バイクにまたがり東北地方を後にしました。高速道路を走りながら、ふと「英世氏は51歳で殉職、兼信公は享年49歳。私は51歳・・・。」と、考えが浮かびました。まだまだ、しなくてはならないことがたくさんありそうです。読書の秋、スポーツの秋などと言われますが、今年の秋は、偉人との出会いの秋となりました。皆さんにとって、実り多き秋になることを願っています。